

---

# いつまでも

変態な愛国者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
いつまでも

【コード】  
N9636N

【作者名】  
変態な愛国者

【あらすじ】  
夜間哨戒から帰ってきたサーニヤがいつものようエイラの部屋に入ってくる。そして・・・。

今日もいつものようにサーニヤが部屋を間違えて入ってくる。

「キョウダケダカンナー」

この言葉を言うのも何度めだろう。いつもサーニヤを見てるだけで隣にいるだけで、サーニヤへの愛を告げることができない。こんなにも近くに愛おしい人がいるのに。サーニヤの白い肌、サーニヤの匂い。

犯したい、汚して自分だけのサーニヤにしたい、サーニヤを自分だけのモノにしたい。独占欲に駆られ理性がきかなくなってきた。

「サーニヤ・・・サーニヤ・・・サーニヤ・・・」

熱病にうなされたように愛する人の名前をつぶやき続ける。

エイラの手がサーニヤの白い肌に触れる。暖かい。愛する人の体温が手を伝わってエイラに劣情を催させる。そしてエイラの手がズボンに伸びる。

「エイラ何してるの？」

サーニヤが目を覚ます。

「サ、サ、サ、サーニヤ、コレハダナ・・・」

「いいよ、好きにして」

「ス、スキニシテって」

「サーニヤが何もしないなら私がエイラに好きなことしてもいい？」

エイラは戸惑ったが愛する人の頼み事だから断ったりしない。

「イ、イイゾ」

すると突然サーニヤはエイラにキスをした。舌をからませ、唾液をエイラの口の中に入れてきた。

「サ、サーニヤ」

突然の出来事にエイラの頭は真っ白になる。

「エイラは私のこと愛してる？」

またしても突然のことにサーニヤは固まってしまふ。愛おしいサー

ニヤが愛してる？と質問してきたのだ。エイラには何を言えばいいのか知っている。今までも何度も言おうとしても言えなかった言葉。特別な人にだけに言う事を許された言葉。

「サ、サーニヤ・・・」

言葉が詰まってしまう、だがここで言うのをやめてしまったら今までと同じ、もしかしたら一生言えないかもしれない。エイラはサーニヤの目を見つめ

「サーニヤ、いままでずっと言えなかったけど、私は、私はサーニヤの事を愛してる」

やっと言えた、今まで伝えられなかった想いを伝える事ができたのだ。

「私もよエイラ。私もエイラの事を愛してる」

ずっと聞きたかった言葉。妄想の中で何度もサーニヤに言わせた言葉。

「サーニヤ」

「エイラ」

「エイラ、私はずっとエイラと離れたくない」

「ワ、ワタシモダ」

「私もエイラにずっと伝えたかったことがあるの。エイラ私の奴隷になってくれる？私の奴隷になってくれたら私は一生エイラを離したりしないから。」

「ホ、ホントカ？」

「エイラ、でも奴隷になったら私の命令以外じゃ何もできないし自由もなくなっちゃうんだよ」

「イイ、サーニヤと一緒にになれるなら何んだって、私はサーニヤを愛してるから」

サーニヤがほほ笑む。

「エイラ、私をずっと愛しなさい」

エイラは嬉しそうにうなづく。

「サーニヤ、サーニヤ、ずっと一緒だよ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9636n/>

---

いつまでも

2010年10月10日21時53分発行